

○ ^{くのかずえ}久野一恵 (西九州大学)、^{くぼあきこ}久保彰子 (熊本県健康福祉部健康づくり推進課)

【背景】熊本県では平成16年より親子で生活習慣病予防にとりくむ「親子健やか生活習慣定着事業」を実施している。本事業を円滑に実施するための助けとするために平成21年教材集を作成した。この教材集には、子ども自身が健康の大切さや自己の生活習慣の問題に気づくことを支援するための15種類の教材が収められている。本事業は、小学校5、6年生を対象に実施していたため、その学年を念頭においた内容になっている。しかし、地域と学校の連携のあり方はそれぞれの地域の事情が異なるので、実際に使用する場面や使用者は制限せず、どこでも誰でも使ってもよいこととし、保健所、市町村の保健部門に加え、学校関係者も含めた様々な関係者へ、教材の趣旨説明と体験を組み込んだ研修を実施し普及を図った。研修会に参加した人には、教材集(CD付き)と、実際の教材として“カルテット”“健太君カード”も配布した。

【目的】教材の活用状況を調査し、教材作成や普及の評価と課題について検討する。

【調査方法】教材を配布した小学校、保健所、市町村に、教材集の使用状況を尋ねるアンケート調査票を県庁より送付し、回収した。266名に配布し144名より回答を得た(回収率54%)。

【結果】回答者のうち最も多かったのは、養護教諭(88名)、ついで市町村保健師(17名)、栄養教諭・栄養職員(15名)の順であった。教材集を使用した人は56名、活用しなかった人は86名で、職種による活用の有無の差はなかった。最も使用が多かった教材は、「食事バランスガイド」(22名)であり、次いで「食習慣バスケット」(18名)「動脈硬化とは」(17名)であった。最も使用が少なかったのは「食事と血糖」「血

圧と塩」(それぞれ1名)。次いで「私と健康コラージュ」(2名)であった。活用場面は、学校では、学活、試食会、学級活動、放課後、地域では健康教室、食改の活動などさまざまであった。対象者は、5、6年生のみならず、低学年や中学生に使用した例、保護者や教職員向け、さらに老人向けの健康教室での使用もあった。活用された場合は、「いろいろな考え方があることに気づいていた」など、それぞれの教材のねらいが達成されている回答が見られた。

使用しなかった理由は、「場面がない」「時間がない」が最も多かった。「使い方がよくわからなかった」「準備が間に合わなかった」という意見や、それぞれの教材のねらいの理解が十分ではないと思える意見もあった。

【考察】本教材が目指した「自分の生活を振り返り何らかの気づきを得る」「親子で生活習慣病予防に取り組むことができる」「学校と地域の連携が促進される」ことは、アンケートに記載された自由記述からほぼ達成されていると考えた。さらに、想定していた場面以外で、より発展した方法で使用されている例もみられ、自律的に発展している様子が伺えた。

【ラウンドテーブルでの検討課題】

1. 事業を展開するにあたって教材の作成と普及をセットにすることは、事業の目的達成に有効か。
2. 有効にするためのポイントは何か。

(連絡先) 久野一恵

西九州大学健康福祉学部健康栄養学科
〒842-8585 佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9
TEL: 0952-52-4191 (代表)
kunok@nisikyu-u.ac.jp